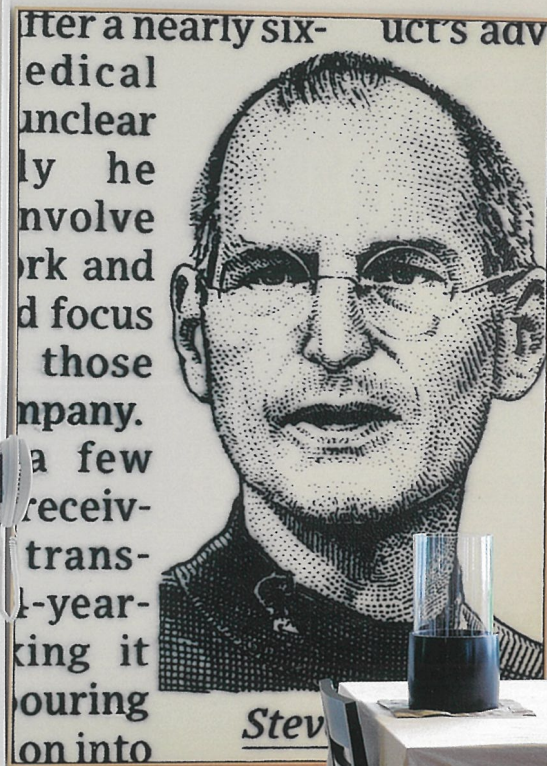


芸術新潮

GEI
JUTSU
SHIN
CHO
3 MARCH
2015

第2特集 少女マンガの越境者

岡崎京子



特集

アートと
暮らす

飾り方や
買い方の
コツも
お教えします

絵画が変える空間 ギャルリーためながの提案

印象派、エコール・ド・パリから気鋭の現役作家まで、多彩な作品を扱う
ギャルリーためながで、あなたの好きな1点を探してみませんか。
撮影：広瀬達郎（本誌）



品川区のG氏宅のリビング。
作品はチェン・ジャン・ホン
《麗蓮》 2007年 油彩、カ
ンヴァス 130×130cm

特集「アートと暮らす」はいかがでしたか。印象的なのは、世界的富豪コレクターもそうでない人も、購入の基準がその作品を好きかどうか、である点は共通らしいこと。当り前のようだけど、好きな服を着、好きな音楽を聴くように、好きなアート作品を家に飾ることが広く実践されているかといえ……。

「仕事柄いろいろなお宅にお邪魔しますが、住む空間についてはインテリアアダザインの質も上がって昔よりきれいになっている。ただ、もっと個性があればいいのと思うことがよくあるのも事実です。どこか画一的で、高級ホテルに仮住まいしているような印象を受けることが少なくないですね」

こう語るのはギャルリーためながの爲永清嗣社長。
「一日中ものを食べることはないけど、空間は一日中見ているわけです。だからその空間を楽しまなくてはもったいない。そのために彫刻を置く、絵を飾るといのは自然な選択だと思うのですが、そこに気づいていない人が意外と多いのではないのでしょうか」

ギャルリーためながはパリにも店を構えている。爲永氏も年の半分はフランスらしいが、あちらではどうなのかしら。「お金の無い若いカップルで小さなアパートに住んでいるような場合でも、自分たちに可能な範囲で、ちょっと面白いからこれ買ってきた、これ飾ってみよう、そんな楽しみ方をしている人は、やはり日本よりずっとたくさんいますね」



中野区のA氏宅の地下のパーティールームにて。
作品は上から順に、アイズピリ《ルカとオーギュスティン》2004年 油彩、カンヴァス 130×162cm／アイズピリ《ラビアン・ローズ（薔薇色の人生）》2011年 油彩、カンヴァス 81×100cm／菅原健彦《春爛漫》2013年 墨・岩絵具・プラチナ箔、和紙 114×146cm／チェン・ジャン・ホン《麗蓮》2014年 油彩、カンヴァス 150×150cm

さて、ここでは絵画が住空間をどんなふうに変えるか、ギャルリーためながの取り扱い作家の作品で具体的に見てみよう。

右頁は品川区のGさんのお宅。フランス在住の中国人画家、チェン・ジャン・ホン（1963年生れ）の作品が、モノトーンを基調にしたインテリアによく映える。中国の超エリート校、北京中央美術学院で学んだ水墨の筆法を生かした油彩画で、ほとんど抽象と見紛うばかりだが、なお花鳥画の伝統に連なる蓮の形象をとどめている。豊富に入る外光も、その植物の生気に似つかわしいようだ。

右4点は中野区のAさん宅。ブルのある地下のパーティールームという日本離れした空間で、いくつか作品を架け替

えてみた。地下という環境とのコントラストの点では、青空が眩しいポール・アイズピリ（1919年生れ）の《ルカとオーギュスティン》の異化効果が面白い。同じくアイズピリ《ラビアン・ローズ（薔薇色の人生）》は団欒に温もりを与えてくれそうだ。上から3番目、菅原健彦（1962年生れ）の琳派風も加味されたモダンな日本画は、清冽に空気をひきしめる。下は右頁と同じチェン・ジャン・ホンだが、室内が暗い分、朱色の鮮やかさに胸がときめいた。

「この空間にはこの絵しかない、なんていうことは決してありません。自分が好きなものを空間に合わせていく中でその人の顔が見えてくる、そうならば理想的ですね」



爲永清嗣氏。ギャルリーためながにて。

Paul Aizpiri

—ポール・アイズピリ展—

「年を重ねるごとに……私のパレットはますます若返ってきた」。本年96歳を迎える巨匠の色彩と躍動感あふれる世界を、近作30余点でご紹介します。

3月6日～4月25日

ギャルリーためなが

東京都中央区銀座7-5-4

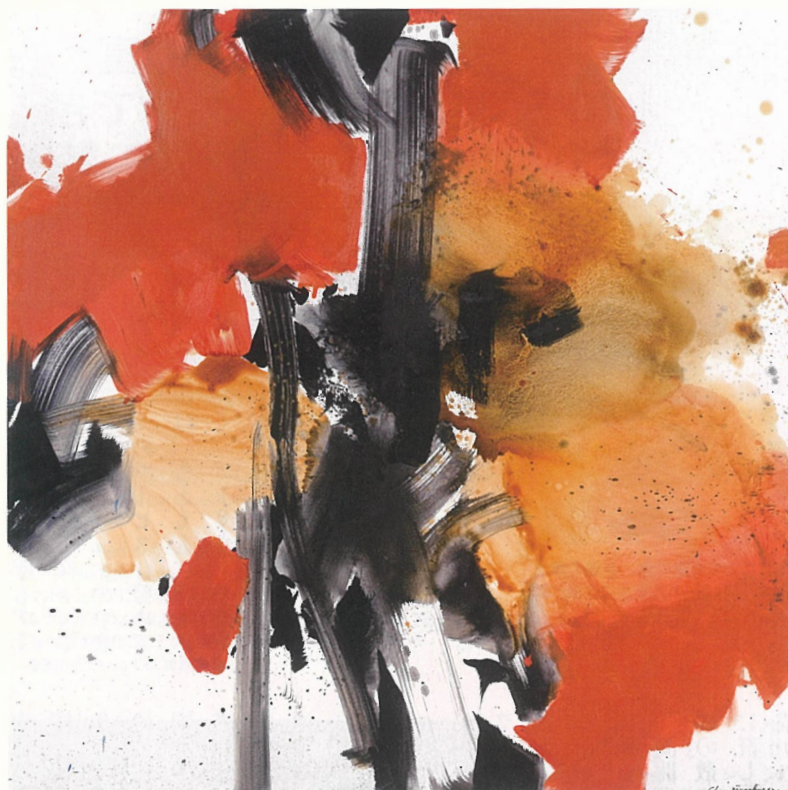
開廊時間◆10:00～19:00

休廊日◆日曜・祝日

問合せ◆TEL.03-3573-5368

www.tamenaga.com

水墨の技で油彩を繰る チェン・ジャン・ホンの 新しい宇宙



《嘉蓮》 2014年 油彩、カンヴァス 150×150cm



アートフェア東京2015出品作家

CHEN Jiang Hong チェン・ジャン・ホン

1963年、天津生れ。1979年、北京中央美術学院入学。
1987年、パリのエコール・デ・ボザール留学。2006年よりギャルリーためながで定期的に個展を開催。2009年、NYのフォーブスギャラリーで個展開催。アートフェア東京2015には新作10点余を出品予定。

DATA

ギャルリーためなが

東京都中央区銀座7-5-4

取り扱い ▶ 絵画

問合せ ▶ TEL 03-3573-5368

FAX 03-3573-5468

gal@tamenaga.com

www.tamenaga.com

開廊時間 ▶ 10:00~19:00

日曜・祝日休廊

アートフェア東京2015での出品ブースは **N07**

チ エン・ジャン・ホンは、パリを拠点に活動し、ヨーロッパやアメリカで最も期待されているアーティストのひとり。左の《嘉蓮》を見ても鮮やかな朱の蓮を貫く筆の勢いに圧倒される。だが、これは書ではなく、カンヴァスに描かれた油絵なのだ。1枚の絵の中に東洋と西洋、伝統と革新を融合させるかのように、水墨の技で油彩を自在に繰る。彼にしかできない技法だ。

天津に生れ、文化大革命という激動の時代を背景に育ったチェンはやがて、中国最難関の北京中央美術学院で伝統的絵画技法を習得した。その後、西洋絵画を学ぶため、国費留学生としてパリの名門エコール・デ・ボザールに入学。モチーフは一貫して中国の伝統的な花鳥画から蓮を選んで描いており、近年は竹をテーマに選ぶこともある。静かな蓮に宿る躍動する生命感、色鮮やかな色彩と、ぼかし、にじみ、飛沫を巧みに組み合わせた自在さ、静と動を併せ持つダイナミズムが、見る人の心を揺さぶるのだろう。世界中で新作が待望されている。

[左から]《奏》 2014年 油彩、カンヴァス 150×150cm

《怜蓮》 2014年 油彩、カンヴァス 100×100cm

《翠蓮》 2014年 油彩、カンヴァス 100×100cm

